

関係各位

国際審判員 中島大祐
(2020特別委員 兼 審判スタッフ)

【大会参加報告】 World Rowing U-23 Championships 2017/7/19-23

2017年7月19日(水)～23日(日)にブルガリアPlovdivで開催されたFISA主催のWorld Rowing U-23 Championships (以下、WRU23CH) に審判として参加しましたので以下の通りご報告致します。派遣して頂きました日本ボート協会の関係各位に御礼申し上げます。この報告書が今後の日本のボート界の国際化に少しでも役立つことを期待しております。

1. はじめに

- (1) 私自身、FISA大会には昨2016年4月のWRC1 (Varese, ITA) に次いで2度目の参加となり、今回は初めて「Championships」の審判を務めた。
- (2) 東京オリンピック・パラリンピックの準備の為、審判業務がない時間帯はFISAメンバーと打合せをしたり、現地OCメンバーに大会運営について教えてもらったりと、時間の有効活用に努めた。
- (3) 2017年2月のFISA競漕規則改訂に伴う審判セミナーが大会2日目にあり、受講した。(レースが午前中だけだった為、午後も丸々活用。)
- (4) 本報告書作成にあたり、審判各部署の役割・業務、設備・用具、号令・動作についてできるだけ一覧性のある纏めを行い、今後、2020を含め国際大会で審判を行う国際審判・国内審判の参考にすることを旨とした。

2. 大会概要

- (1) 大会日程 <配置された審判部署>

7月19日	08:30 審判ミーティング、10:30 Practice Start・補欠レース 16:00～18:25 予選	< Assistant Starter→Starter >
7月20日	09:00～11:40 予選、11:45～12:55 敗者復活 14:30～18:30 審判セミナー	< CC-In→Umpire >
7月21日	09:00～11:25 敗者復活・準々決勝・準決勝 16:38～18:07 準決勝	< Judge at Finish→Resp. Judge at Finish > < CC-Out >
7月22日	09:00～13:13 順位決定F～C・準決勝 15:55～16:25 順位決定B、16:35～18:18 決勝	< Judge at Start→Umpire > < CC-In >
7月23日	09:00～09:55 順位決定B、10:10～13:10 決勝	< Boat Weighing→Umpire >

(2) 種目別 クルー数・選手数

	男子		女子		合計	
	クルー数	選手数	クルー数	選手数	クルー数	選手数
1X	27	27	19	19	46	46
2-	15	30	12	24	27	54
2X	21	42	14	28	35	70
4-	15	60	14	56	29	116
4+	7	35	-	-	7	35
4X	14	56	9	36	23	92
8+	11	99	8	72	19	171
L1X	34	34	17	17	51	51
L2-	12	24	-	-	12	60
L2X	22	44	14	28	36	72
L4-	5	20	-	-	5	25
L4X	13	52	10	40	23	92
合計	196	523	117	320	313	884

(3) 開催地

Plovdivは、ブルガリア (BUL) 第2の都市、Plovdiv州都、人口37万人強の都市である。紀元前4世紀から栄える「欧州で最も古い都市のひとつ」と言われている。ブルガリアの首都Sofiaから南東に約150km、車で約2時間の距離にある。

(4) コース概要

延長2000m強、長方形の人工コース、全部で10レーン。ウォームアップ・クールダウンを2レーンずつの折り返しとしているので、レースが行き過ぎた直後に競漕レーンにはみ出す形式 (戸田と似た運用)。

3. 審判員・補助員

部署	審判員数	審判委員数	Swiss Timing	補助員数	補助員業務 (N=NTO/V=ボランティア)
President of Jury	1				
Umpire (x6)	6			6	カタマラン操縦 (V)
Starter	1	1		1	発艇水域補助 (N)
Assistant Starter	1				
Judge at Start	1		1	1+3+8	Aligner/棧橋移動(N), Boat Holders(V)
Resp. Judge at Finish	1	1	6	2	計時・写真判定補助 (V)
Judge at Finish	1			2	ブザー係・通過順入力 (N)
Resp. CC	1	1	1	4~6	GPS・Bow Number交付 (N・V)
CC Out Pontoon	2			4~6	Photo Book照合、棧橋係 (N・V)
CC In Pontoon	2			4~6	艇計量・Doping誘導、棧橋係 (N・V)
Athletes Weighing	1			2	審判補助 (N)
Boats Weighing	1			1~2	審判補助 (N)
合計	19	3	8		

4. 審判各部署の役割・業務 (日本と異なる点を中心に)

部署	役割・業務
President of Jury	他の役員との連携の中には、Fairness CommitteeからLane Allocation (使用レーン) を聞き、各審判に伝達する業務が含まれる。
Umpire (x6)	決勝 (Final A) 以外は基本5分間隔でZonal Umpiring。自分の担当Zoneで接触・妨害が起きそうな時はDynamic Umpiringに切り替え、基本的にFinishまで追行する。
Starter	呼び込み、警告の伝達、2分前黄色灯の点灯、ユニフォーム確認を含め、基本的に1人で行う。クルーとの肉声コミュニケーションは重要。
Assistant Starter	発艇業務についてはアシスタントに徹する。双眼鏡は片時も手放せない。Zonal Umpiring時には「最初のUmpire」として150mまでを担当する。
Judge at Start	発艇線は見ずスクリーンを凝視し、フリーズした画面でFalse Startを認めた瞬間、赤ボタンを押してレースを止める。
Resp. Judge at Finish	決勝線は見ずスクリーンを凝視。Result Sheetの内容 (区間タイムの整合性を含む) を確認し、問題がなければ「Race XX, Official!」と叫び、署名する。
Judge at Finish	1人で着順を見極め、クルーが決勝線を通過する毎にバウナンバーを叫ぶ。主審が白旗を揚げたら、それに呼応して「White Flag!」と叫び、NTOに白ランプ点灯を促す (白旗の代わり)。
Resp. CC	CC審判・補助員を統括する (艇計量対象クルーの伝達を含む)。
CC Out Pontoon	出艇しようとするクルーをPontoonの手前で止め、広告・バウボール・シューズ等を短時間に確認する。並行してボランティアが写真照合とGPS・バウナンバー取り付けを行う。
CC In Pontoon	艇計量 (及びDoping) 対象クルーにPontoonから降りる地点で伝達する。ボランティアは艇計量場に誘導する (Dopingのシャペロンに手渡す)。
Athletes Weighing	待合室は椅子に座って待たせる。デッドウエイトはUPSの袋に砂を入れてテープで巻く。
Boats Weighing	艇を返して直接計量器に乗せ、外すものを外す。(1X等の小艇は安定しないので外すものを外した後、再度伏せる。) 靴が水を吸っている場合、ウエスで拭き取らせる。靴の中に水分を含ませた靴下等が詰め込まれていないか、靴先を外から押して確認する。

(1) 全体

- ・トランシーバーは、審判長/発艇/線審/判定/Resp.CC/舵手計量/各主審が持つ。審判委員は別途携帯電話を持つ。
- ・Fairness Committeeが「Lane Allocation」 (使用レーン) を決め、審判長が各部署に無線で伝達する。
- ・大会初日と3日目では、次のように違うレーンを使った。練習及びクールダウンに0~2レーンの一部を使う為、極力0~1レーンを使わずに済むレーン割りを行ったとのこと。

	大会初日	大会3日目
6杯レース	→ 1~6レーン	2~7レーン
5杯レース	→ 2~6レーン	2~6レーン
4杯レース	→ 2~5レーン	3~6レーン
3杯レース	→ 3~5レーン	(なし)

・最初の審判ミーティングで審判長から、「Plovdivは（日本の戸田のように）レースが行き過ぎた後、練習クルーがコースに入る。ルールを守るのが困難なクルーが多いと思うので、初日はイエローカードを出さず注意に止めること。」との方針が伝達された。

・今回の大会では、部署移動は最初のレースの発艇定刻45分前に大会本部を出発。最後のレースの発艇定刻45分後にホテル行きのバスが出発。

・2日目朝の審判ミーティングの後に集合写真を撮影した。

・初日、2日目の審判ミーティングでは、審判長から生活面での連絡や確認が行われた。主なものは次の通り。

・2日目以降、バスはホテルを07:00に出発し、Venueに到着直後の07:15から審判ミーティングを行うことが決まっていた。2日目の朝食は06:30から食べられるようになっていたが、時間が不十分だと訴えた審判がいた為、3日目からは06:15朝食開始になった。ホテルの食事やバスの時刻は審判長に文句を言っておけば可能な範囲で現地OCが対応してくれることが多い模様。

・交通費支給額の確認。（参考：2016年までは現金（ユーロ）入りの封筒を受け取ったが、2017年からは銀行振込になった。大会2ヶ月前にメールで受取口座の連絡をしたが、振り込まれたのは大会終了2週間後だった。）

・復路の空港（又は駅）までの交通手段の確認。現地OCの輸送部署が作成した一覧表を基に、審判長が一人ずつ確認をする。

・ホテル⇄Venue間を自家用車で移動しても良いが、バスに乗らないことを明確にしないと、待たなくても良いのに待ったり、輸送部署が無駄にバスを手配してしまったりということが生じるので審判長（又は生活担当）に言うこと、とのリマインド。

(2) 発艇 (Starter・Assistant Starter)

・発艇部署にはStarterとAssistant StarterのITO2名が配置され、呼び込み、警告の伝達、2分前黄色灯の点灯、ユニフォーム確認、発艇号令等を行う。審判委員1名、NTO1名は居たり居なかったりであった。クルーとの肉声コミュニケーションは重要。Zonal Umpiring時には「最初のUmpire」として0～150mで発生する事態に対応する。

・Swiss Timingの発艇合図信号システムは、発艇と線審が結ばれており、次のような特徴を持っている。

・インターコム機能があり、双方がマイク付きヘッドホン（有線）を付けて使用する。例えばFalse Startがあった場合、線審は発艇にインターコムでバウナンバーを伝える。

・線審が全艇が揃ったと認識し白ボタンを押す（白旗を揚げる代わり）と、発艇のコントロールボックスの白ランプも点灯する。万一、白ランプが点灯していない状態で発艇が（Attentionの後に）赤ボタンを押すと、赤ランプは点灯するが「ピー」という小さな警告音がして、発艇に「まだ線審が白ランプを点灯していない」ことを伝える。

・緑ランプは約15秒で消える。強制的にリセットしたい場合には緑ボタンを再度押す。赤ランプ点灯中に赤ボタンを押すと同様にリセットされる。

・発艇からクルーへの肉声コミュニケーションとして次のようなものを聞いた。

・「ESP, Lane 1」, 「Collection, ESP, Lane 3」 ← 呼び込むレーンを言い間違えた時。

・「SUI, you don't have a bow number, next time you should receive bow number at CC」 ← バウナンバーを付けていないクルーへの注意。補欠レースだったのでそのまま発艇させた。

・「ROU, can you show me (can I see your) Dead Weight ?」 ← DWを見せて下さい。

・「I repeat UZB, Lane 3 !」 ← UZBが3レーン以外に向かっているので「何度も言わせるな！」と。

・「BRA, direction !」 ← BRAの進行方向に他の艇がいるので「BRA、後ろ！」という雰囲気。

・250m地点の陸上（主審が待機する水域の対岸）にマーシャルのNTOがいる。主な業務は、①回漕レーンから練習の為に競漕レーンに入るクルーの監視、②次のレースに出るクルーを遠いレーン順に整列させること。遠いレーン順に呼び込むことについては、代表者会議でも伝達していると審判委員のMr. Vladimirから説明があった。2日目までは250mマーシャルがトランシーバーを持っていなかったが、3日目から審判と同じチャンネルのトランシーバーを持つようにした。



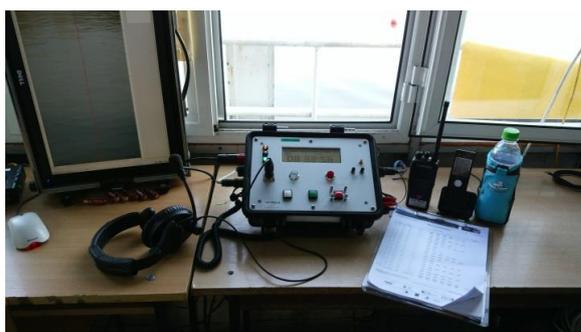
(写真) 発艇コントロールボックス



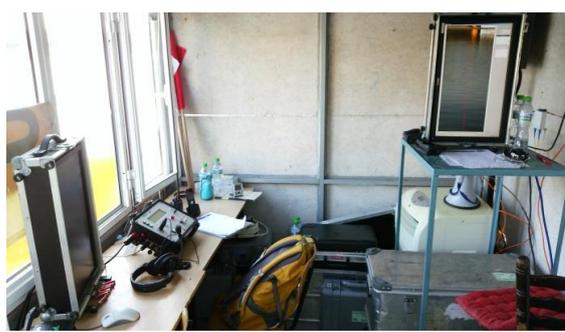
(写真) Start Fingerは固定されており、Start Pontoonごと赤いパラソルの下のウインチで前後に動かす。

(3) 線審 (Judge at Start)

- ・線審部署にはJudge at Start (ITO)、Aligner (NTO)、Swiss Timingの3名が配置されている。
- ・Aligner Hutには発艇線上にビデオカメラが設置されており、その映像は①Judge at Start、②Alignerが夫々の目の前にある画面 (パソコンの外付けディスプレイ) で見ることができる。
- ・Alignerは、発艇線を見ずにディスプレイを見ながら各レーンのボートホルダーに現地語で指示を出し、船首を揃えていく。ブルガリア語の内容はわからなかったが「田中君、少し前、よしありがとう」のように声を掛けていた模様。Alignerは白旗が上がっているかどうかには拘らず艇揃えを継続する。
- ・Judge at Startは、発艇線を見ずにディスプレイを凝視し、全艇の艇首が揃ったと判断したら白ボタンを押すと、線審及び発艇のコントロールボックスの白ランプが点灯する。白ボタンを解除する時は再度白ボタンを押す。
- ・発艇の瞬間、Judge at Startは引き続きディスプレイを凝視する。発艇が発艇ボタン (緑ボタン) を押すと、ディスプレイの画像がフリーズする。Judge at Startはフリーズした画面でFalse Startを認めた場合、即座に赤ボタンを押してレースを止める。
- ・発艇との瞬時の連絡には発艇合図信号装置に付随するインターコムを使う。お互いがマイク付きヘッドホンをしているのでハンズフリーで会話ができる。
- ・本会場のスタートフィンガーは個々に前後させることができず、スタートポンツーンごとと前後させるタイプであった。ボートホルダーはAlignerの指示を受けると腕を前後することにより艇を前後させ、それだけで対応できない場合はポンツーンをボランティア2~3人がウインチを回してポンツーンごと動かしていた。



(写真) ITO (Judge at Start) は発艇線上に座るが
見ているのは左前方の画面。



(写真) ITO席を左横から見た写真。
NTO (Aligner) は90度横を向いて画面に向かう。

(4) 主審 (Umpire)

- ・今大会は、審判艇6杯を使用。Final AのみDynamic Umpiring、その他のレースはZonal Umpiringであった。
- ・Zonal Umpiringの要領は以下の通り。
 - ・各カタマランの待機地点は、U-1 : 150m、U-2 : 450m、U-3 : 850m、U-4 : 1250m、U-5 : 1650m、U-6 : 1900m。次の主審の待機地点までが担当Zoneとなる。(U-1であれば150~450m。)
 - ・1艇ずつ互い違いに待機するのが基本だが、今大会は0レーン側が練習水域であった為、カタマラン6艇全てが7レーンの外で待機した。
 - ・全ての競漕艇が待機地点を通過したら、速やかに真横にコース中央に進んでからレース方向に向き直り、その場でレースを注視する。次の審判艇がコース中央に向かって動き始めたらゆっくりと待機場所に戻る。
 - ・接触・妨害等が見込まれた場合 (if you have a feeling something may happen,)、追行を始める。自分の担当Zone内で事態が解決すれば、次の主審にバトンタッチして自分は元の待機場所に戻る。次の主審の担当Zoneに入っても追行を継続する場合は、決勝線まで追行し、その後U-6になる。他の主審は1つずつ担当Zoneを繰り上げる。
 - ・敗者復活戦は (6杯レースの場合) 一番遅いクルーが6レーン側になる。今回は主審全てが7レーン外で待機なのでコース中央に進み始めるタイミングをよく考えること、とPatrick審判委員長から注意があった。
 - ・数年前まで自分のZoneを全て追行し、その後コース外に出て元のポジションに戻るという運用であった為、(クルーに遅れないようにと) コースに斜めに入るドライバーがいたが、現在の運用を説明して理解を得た。
- ・Dynamic Umpiringは、U-1からU-6までが順番にレースを追行する。今大会は、Stefanie審判長の配慮により、Jury18名全員がFinal Aの主審を最低1レースは務めることができた。
- ・Final Aは表彰式がある為、フィニッシュ直後に1~3位に対して主審から「あなたは〇位です。表彰式に向かって下さい。」と伝達するが、それを専門に行う主審を置くことがあり「Admiral」と呼称する。今大会では、U-1がFinal A種目を追行した後、フィニッシュ付近にとどまりAdmiralを務めた。Patrick審判委員長からの無線で情報を得て、クルーに伝達する。U-1を除く他の5艇がその後のFinal Aの主審を順番で務めた。
- ・主審に3回配置されたが、ドライバーは3人とも英語でのコミュニケーションが達者であった。

(5) 判定 (Responsible Judge at Finish / Judge at Finish)

- Judge at Finishは決勝線上に座って着順を見極め、クルーの決勝線通過後にバウナンバーを叫ぶ。
- 主審が白旗を揚げたら「White Flag !」と叫び、NTOに白ランプ点灯を促す(白旗の代わり)。
- Judge at Finishを担当したレースで、0.10秒差、0.06秒差のレースがあったが、自分の目視と写真判定の結果が同じでホッとした。
- Resp. Judge at Finishは、決勝線上に座る必要はなくスクリーンを凝視する。
- 写真判定の画像処理は全てSwiss Timingが瞬時に行う。
- レース成立後、印刷されたResult SheetをSwiss Timingから受け取り、その内容(Split Timeの整合性を含む)を確認し、問題がなければ「Race XX, Official !」と叫び、署名する。Split Timeの整合性チェックには「世界の一流クルーは第1・4Qのタイムが速く、第2・3Qが遅い」ということを頭に入れておく必要がある。



(写真) Judge at Finish (1・2段目にNTO、3段目にITO)



(写真) Swiss Timing社

(6) 出艇監視 (Control Commition Out Pontoon)

- ITOは2名が基本で、NTO2名程度・Swiss Timingのボランティア2~4名程度とチームを組む。
- ITOの主な任務は、出艇するクルーの広告(艇・ユニフォーム)・バウボール・シューズ等に問題がないかの確認、出艇したクルーの記録、等。並行してボランティアが写真照合とGPS・バウナンバー取り付けを行う。
- ポンツーンに向かっているクルーをポンツーン手前で呼び止めて上記確認・作業を行うが、間に合わない場合にはポンツーンに乗ることもある。
- 艇を担がせた状態で、バウボールの固定と、シューズの踵が平行以上に上がらないか(ヒールロープが十分短い)を確認しながら、艇の下・艇の周りを歩き、広告についてざっと目視する。一度に多くのクルーが出艇しようとした場合、またエイトなどの場合、ITOだけでは間に合わないので、NTOと協力して確認を行う。

(7) 帰艇監視 (Control Commition In Pontoon)

- ITOは2名が基本で、NTO2名程度・ボランティア2~4名程度とチームを組む。
- ITOの主な任務は、全てのクルーが帰艇したかどうかを確認すること、艇計量対象クルーに対象であることを伝えること、Dopingチェック対象クルーに対象であることを伝えること、等。
- ITOは通常ポンツーンには乗らず、ポンツーンから降りてすぐの陸上で待機し、対象クルーがポンツーンから陸上に降りる場所で「Japan, Boat Weighing !」と伝える。返事がない場合は「OK ?」などと確認する。
- デッドウエイトはポンツーンに乗り、ポンツーンに着くや否や確認する。袋が破られていないかを確認する。
- 艇計量対象クルーがポンツーンに近付いたら、誘導係のボランティアには(身振り手振りで良いので)近くに来るように伝えておく。
- Inポンツーンが2つある場合、2名のITOはポンツーン1本ずつを担当する。帰艇クルーの確認は夫々がスタートリストに記録し、時々相互に確認して全てのクルーが帰艇したかどうかを確認する。
- 艇計量対象クルーは、Resp.CCから何レース分か纏めて伝達される。(Resp.CCが手書きしたもののコピーを手渡されることもある。)1日分の対象クルーを伝達され、自分が午後に別の部署に行く場合、自分のスタートリストを午後の審判にそのまま引き継ぐ(渡してしまう)こともある。



(写真) Control Commission小屋と日除けパラソル



(写真) バウナンバー・GSPの取り付け

(8) 選手計量 (Athlete Weighing)

・選手計量所にはITO1名、NTO1~2名が配置される。計量スペースと待機スペースに分け、その間を衝立(カーテン)で仕切り、計量スペースの中が見えないようにする。待機スペースにはテスト計量器、椅子を置く。計量スペースは衝立の右から入り、左から出る等、一方通行にした方が人の動きがスムーズになると。

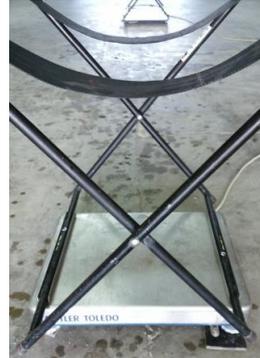
・選手計量所には脱いだ衣類を置く為の椅子が必要。机は必ずしも必要ない。またトイレと隣接していた方が良いとのこと。

・デッドウエイトは、そのイベントの最初のレース(予選等)の時に審判が作る。レースが終わるとコックスが選手計量所に戻すが、審判は封を開けずに放置しておき、次のレースからはコックスが自ら微調整していた。

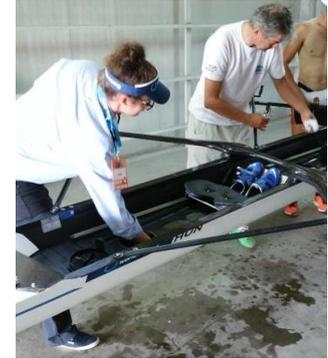
・デッドウエイトを作成(又は調整)した後、コックスがデッドウエイトを抱えて計量器に乗るケースとそうではないケースがあり、明確に決めていないようであった。



(写真) 舵手計量(一番手前がITO)



(写真) 艇計量器



(写真) 左:ITO、右:NTO

(9) 艇計量 (Boat Weighing)

・艇計量所にはITO1名、NTO1~2名が配置される。片側から入り反対側から出る一方通行にするのが理想的だが、今大会では既存の艇庫(片側からしか出入りできない)を利用した為、入る艇と出る艇がすれ違う形となった。

・計量器は2台で1セットになっており、表示板とプリンターが接続されている。大会によってはFISA保有の計量器(大会がない時はSwiss Timing社が保管)が提供されることがあるとのこと。(今大会は選手計量・艇計量共にFISAの計量器を使っていた。)FISA保有のものだと、計量器の両端にウマの脚部がはまる22mm程の枠(ガイド)があり、ウマがきちんと固定され便利である。

・対象クルーが到着したら艇内が見える状態で計量器のウマに乗せ、外せるものを外させ、蓋を開けさせる。(日本のように別のウマに仮置きはしない。)ITOとNTOは、蓋の中の確認、シューズが濡れていないかの確認等を行う。シューズのつま先に水分を含ませた靴下を詰め込む場合があるので、つま先を外から軽く押して、中に何も入っていないかを確認すると良いとのことである。水分が残っている場合、艇を返させて水分を出す、ウエスで拭かせる、等を行う。

・確認を終えたら、艇から離れるよう伝え、重量が上回っていれば重量を記録し、数字は読み上げず、「OK, Official!」と叫ぶ。1X等の小艇がウマの上で安定せず回転してしまう場合、艇を伏せてウマに置き計量する。

・毎朝、20kgの標準器(Calibration)を載せ、計量器が正確であることを確認する。(毎朝20kgの表示をプリンターで印刷したものが記録として残っていた。)レース中に計量器を動かした場合、又は蹴飛ばす等で動いてしまった場合、ゼロ表示の確認は勿論だが、標準器を載せて再確認するようにとGabrielle審判委員から指導があった。(そのことがどこまで徹底されているかは定かではない。)

5. 大会中の出来事

(1) フォルススタート

・大会初日、発艇(Starter)を担当して6レース目のBW4X、Heat-1のGBRがフォルススタートをした。緑ボタンを押した直後に赤ランプが点滅を始めたので、最初は「機械が壊れたのか?」と勘違いするほど時間差がなく、全艇2~3本で漕ぎ止めてすぐにスタート位置に戻った。「GBR, False Start, Yellow Card」と伝え、最初のスタートの2分後に再スタートをすることができた。因みにこのGBRクルーは金メダルを獲得した。

(2) レースの入れ替え

・大会4日目のBW2X、SF-A/Bに出漕するJPNクルーがOut Pontoonで艇を落下させ、その艇は使用不能になった。審判長から各部署に「発艇定刻11:44をその日の午前最終レース直後の13:20に変更する」との無線連絡があった。同レースに出漕するJPN以外のクルーは既に水上におり、250mのマーシャルから伝達した。

・後でJPN関係者に聞いた話では、Out Pontoonに差し掛かった時に声を掛けられ、後方を担いでいた選手は立ち止まったが前方の選手は気付かずそのまま歩き続けたとのこと。(声を掛けたのがITO・NTO・ボランティアの何れかは不明。)後ろから声を掛けさせないように徹底することが必要だと感じた。

(3) レース後の体調不良

- ・ Final Aがあった4日目・最終日は気温が36℃くらいあり、フィニッシュ後に熱中症のような症状を見せる選手が続発した。
- ・ 大会ドクターでありFISAのスポーツ医学委員である日浦氏（JPN）によれば、気温と湿度が高い日の場合、具合が悪い選手が出始めると、同時多発的に発生するとのこと。メディカルルームにはベッド10台（簡易ベッドを含む）、製氷機等があった。
- ・ 救急車はフィニッシュライン真横の緊急桟橋横に1台、In Pontoon傍に1台が待機しており、何度もVenue内の医務室まで選手を運搬していた。また救助艇にはゴムボートが適切とのことであった。

6. 国際大会開催 参考情報

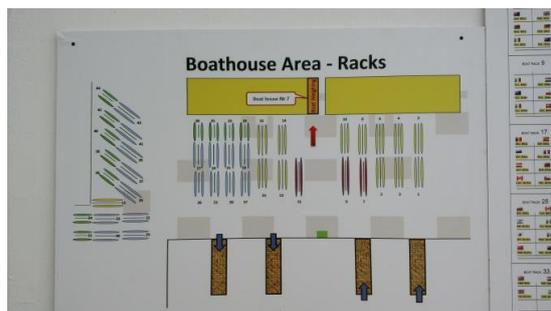
審判業務から少し離れ、今後日本で国際大会を開催する際の参考になる情報を以下列挙する。

(1) 写真判定装置用カメラ

- ・ 500m・1000m・1500mのTiming HutとFinish Towerには写真判定装置のカメラが、夫々設置されていた。
- ・ 500m・1000m・1500mには元々Swiss Timingスタッフも常駐し画像処理をしていたが、今年度からカメラだけにして、画像処理はFinish Towerで行っているとのこと。
- ・ 尚、Aligner's Hutにはフォールスタート判定用のカメラが設置されていた。

(2) ボートラック

- ・ 艇庫の屋内ラックは大会用には使わず、全ての競漕艇を仮設の屋外ラックに置いていた。
- ・ ラックは（国毎ではなく）艇種毎となっていたが、国旗入り見取り図が張り出しており、便利であった。



(写真) ボートラック見取り図（左半分）



(写真) ボートラック見取り図（右半分）

(3) エルゴメーター・シャワー

- ・ 艇庫裏手の1部屋をエルゴメータールームとしていた。冷房あり。Concept：17台、RP3：7台をOCが用意。
- ・ シャワーは艇庫内の恒設のもの（男女10台ずつ）を使用。更衣室の大きさは十分あった。



(写真) エルゴメータールーム



(写真) アイスバス

(4) チームテント・アイスバス

- ・ チームテントは、色とりどりのテントが芝生上に立っており、アイスバス、エルゴメーターを持ち込んでいる国もあった。
- ・ 今大会では大会側が各国に用意するプレハブやテントはなかった。

(5) メーカーテント

- ・ ボートメーカー5社、オールメーカー3社、部品メーカー1社がテントを出していた。
- ・ ボートメーカーの場合、テント周辺で競漕艇の修理を行うことがある為、テントスペースに加え修理スペースを確保していた。（エイトを置くらば長辺20mの場所が必要になる。）

(6) 昼食レストラン

- ・ 大型テント内に長机14台（8席/机）を並べて仮設レストランとしていた（14×8=112席）。冷房・冷水器あり、入口には消毒用アルコールあり。
- ・ ホットミール（よそってもらう）、サラダ・フルーツ・パン類（セルフサービス）が用意されており、時々品切れになることはあったが、味・見た目共に選手・コーチ・ITO・NTOが満足できる内容であったと思う。



(写真) 昼食レストラン (一番奥から入口方向を望む)



(写真) FISA Merchandise ショップ

(7) ショップ

- ・選手・コーチ用レストランのすぐ外、及び観客席裏の数ヶ所 (一部屋内) で飲料・軽食を提供していた。
- ・物販は「FISA Merchandise」としてNew Wave社が出店していた。

(8) インフォメーションセンター

- ・艇庫裏手の1部屋をインフォメーションセンターとしていた。各国チームがスタートリスト・リザルトシートを受取り、翌日のバス・ランチの予約等を行っていた。
- ・Transportationの責任者は、FISAのSvetla女史の娘のRosyさんだった。

(9) 観客席

- ・Finish Towerに繋がる第1スタンド (屋根付き) をPresidents席 (各国2席は無料、3席目から60ユーロ/席) 及びFISA Family席 (60ユーロ/席) として使用し、1800m前の第2スタンド (屋根付き) を一般席 (無料) として使用していた。



(写真) 第1スタンド前で表彰式 (向かって左が判定塔)



(写真) 第2スタンド (第1スタンドの向かって右にある)

(10) 動画収録

- ・固定カメラをStart付近、Alginer's Hut、各Timing Hut、Finish Towerに設置。
- ・コース沿いの道路を走る車両にサイドカメラを搭載した。
- ・今大会は水上 (カタマラン) からの撮影は行っていなかった。
- ・レース中のクルーの顔は、Start付近のカメラ、900mにある橋の上のカメラで補っていた。



(写真) サイドカメラを荷台に積んだ車両



(写真) 固定カメラはTiming Hut上に

(11) 開会式

- ・大会前日の7月18日19時から開会式が行われた。会場は半円形のローマ劇場で座席は石造りであった。
- ・大会役員の挨拶に続き、旗手 (学生ボランティア) と各国選手代表が入場行進。その後、学生ボランティア20名程がボートをテーマにした創作ダンスを披露し、客席の選手たちを招き入れると舞台上は若者でいっぱいになった。その後、バンドの演奏があり、30分程で開会式は終了した。
- ・手作り感満載の演出で、演奏はアマチュアの様様であったが、選手と同世代のボランティアが踊り、選手たちも自然と踊り出すという演出が何とも微笑ましかった。(日本選手団も恥ずかしそうに踊っていた。)



(写真) 閉会式会場（舞台側から観客席を望む）



(写真) 開会式（手前にダンサー、一番奥にバンド）

(12) パーティー

- ・大会2日目の7月20日19:30からJury & Media Outingがあった。
- ・大会4日目（最後の夜）の7月22日20:00からNations Dinnerがあった。
- ・何れもOCがホテルと会場の間シャトルバスを運行した。

(13) 空港出迎え

- ・私自身のSofia空港到着は22時台であったが、その時間帯であってもリーダー1名とボランティア3名が対応してくれた。バス乗り場への誘導はスムーズで問題はなかった。
- ・バスは複数のホテルで数名ずつ乗客を降ろした。私はホテルから少し離れた場所で降ろされ、運転手の現地語での説明がよくわからなかったこともあり、深夜の街をウロウロすることになった。理想を言えばホテル側に受入れボランティアがいて、バスから降りた乗客を誘導してほしい。

7. 国際審判集合写真



(写真、左から順に)

Vladimir MEGLIC SLO	Diego CEJAS ARG 1702	Luis CERVELLO MEX 1611	Konstantinos PAPAGIANNIS GRE 1205	Gabrielle ISENSCHMID WEBER SUI	Paddy IBBOTSON GBR 1451	Dragana PUSONJIC SRB 1429	Priit PURGE EST 1701	Peter FAJFAR SLO 1385	Jan NISSSEN DEN 1261	Stefanie PALFNER FISA 1333
---------------------------	----------------------------	------------------------------	---	--------------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	----------------------------	-----------------------------	----------------------------	----------------------------------

Horst ANSELM AUT 1271	Caroline SCHOMBERG AUS 1612	Niels OTTOW SUI 1602	Patrick ROMBAUT BEL	Guillaume CHAIDRON FRA 1671	Razemin OMAR SGP 1556	Carol MUIRHEAD RSA 1648	Luca ZACCHIGNA ITA 1588	Thomas BLACQUIERE CAN 1605	Lieven MALISSE BEL 1377	Daisuke NAKAJIMA JAP 1627
-----------------------------	-----------------------------------	----------------------------	---------------------------	-----------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	-------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

以上